

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～
vol. 34

2021年10月22日

ボランティアスタッフ養成講座を開催しました

ピピオのボランティアスタッフ養成講座は、昨年はコロナ感染拡大を考慮し、やむなく中止となりましたが、今年はZoomでのオンラインにより開催しました。オンラインでは参加のハードルが高くないか？ という不安もありましたが、虐待を受けた子どもや居場所のない子どもたちへの支援に関心あるという方たちから応募いただき、無事開催することができました。

講座の開始時刻は例年どおりの午後6時としており、自宅に帰って受講されることは大変だったと思いますが、熱心に受講していただき、ピピオの家・はばたけ荘の新しいボランティアスタッフとして加わっていただきました。

また、今回の講座はZoomで録画した動画をYouTube（限定配信）で視聴できるようにすることができたので、現ボランティアの皆さんにもそのご案内をしたところ、「改めて勉強したい」と、多くの方からご希望いただきました。

Zoom運営の経験が無いため、開催前にはZoom解説本を読んだりネットで調べたりしました。不安とストレスを抱えてのスタートでしたが、最後は、受講者の皆さん、現ボランティアの皆さんの熱いお気持ちに救われた思いです。

ボランティアスタッフの皆さま、今後ともピピオへのご協力をよろしくお願いいたします

ピピオ事務局 小田

■第11回ボランティアスタッフ養成講座の概要

(本講座は公益財団法人マツダ財団とピピオ子どもセンターとの共同事業である「スタートラインプロジェクト」として実施しています。)

講	開催日	テーマ	講師
第1講	6月9日	ガイダンス及び子ども担当体験報告	鶴野一郎理事長、川崎浩介弁護士
第2講	6月16日	居場所のない子どもたちの実情	中本忠子副理事長（食べて語ろう会理事長） 蓮見和章理事
第3講	6月23日	ジェンダー平等について	広島大学ハラスメント相談室准教授 北仲千里氏
第4講	6月30日	発達障害がある子どもへの接し方	磯辺省三理事
第5講	7月7日	トラウマのある子どもへの理解と支援	広島大学大学院人間社会科学研究科准教授 上手由香氏
第6講	7月14日	ピピオの家・はばたけ荘ってどんなところ？	ピピオの家スタッフ、はばたけ荘スタッフ
第7講	7月21日	子どもへの『気づき』がつなぐ支援の可能性 ～ソーシャルワークの視点から～	広島県教育委員会スクールソーシャルワーカー スーパーバイザー 酒井珠江氏
第8講	7月28日	ピピオの活動につながる法制度と他機関との連携について	平谷優子理事

全国の緊急事態宣言、蔓延防止地域のすべてが、9月末に解除になりました。すべてが解除になり「晴れの気分」にはなりますが、毎日の感染者数の増減には、気が抜けない毎日です。大きなリバウンドが無いことを願うのみです。

これまでに経験したことがない「コロナ禍」が、私達の暮らしに大きな影響を及ぼしていることは否めません。

10代の子どもたちの自殺者数は、2021年1月～7月で270人、うち中学生は75人、高校生は188人でした。昨年度の10代の自殺者数は、過去最高の499人でした。それを上回るペースになっています。

その要因として、文部科学省の専門家会議は、「コロナ禍の影響として、休校で在宅時間が長くなり、家庭に居場所を感じられない子どもが、息苦しい思いをした可能性は否めないと指摘しているほか、学校での活動を通して目標や達成感を得る機会が失われたことや、悩みを相談することも難しくなったこと」が背景にあると分析しています。

コロナ禍は、社会全体に暮らしにくさをもたらしています。その終息が見えない今、私たちの日常はどうなっていくのか。そんな不安の中にいます。

コロナ禍で、子どもも大人も、我慢を強いられています。しかも、その我慢は、期限が切られてはいません。その苦しさが、積もり積もった「悩み」となっています。

その積もり積もった悩みを「吐き出す」場所、人が居ない場合には、息苦しくなり、無力になっ

ていきます。周りにいる誰かが、その息苦しさに気づき、声をかけていたら、あるいは、駆け込むスペースがあれば、つまり「安心できる居場所」があれば、その息苦しさは少しは軽減するのではないのでしょうか。子どもたちは、「知ってほしい。気が付いてほしい。わかってほしい。聞いてほしい」と大人に訴えています。

今後、子どもたちの学校生活も、本格的なオンライン授業等の導入で、新たな悩みが生じることが予測されます。取り残されたと感じる子どもを出さないための「大人力」が今こそ必要だと思います。そのためにも、子どもの話に耳を傾ける、子どもの変化に気づく等の周りにいる大人の役割が、ますます重要になってきます。それぞれの立場で、子どものSOSに気づいた場合には、放置せずに、そのしんどさを、子どもたちと一緒に考え、一人じゃないことを伝えていける大人が多くいる社会であってほしいと思います。

新総理大臣は、自分は「聞く力」がある、とおっしゃっています。是非とも子どもたちの声にも耳を傾けていただき、子どもたちが大事にされたと感じられる「子ども施策」をお願いしたいものです。

これからも、私たちは、子どもたちの緊急避難先として、温もりのある居場所づくりを目指します。引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

理事 上野 和子

第11回通常総会のご報告

2021年度（第11回）通常総会が、2021年6月12日午後2時から広島弁護士会館で開催されました。本年も新型コロナ感染流行下での開催となりましたが、正会員70名のうち委任状出席も含め51名の方が参加されました。

総会では、令和2年度事業報告及び収支決算の件、令和3年度の事業計画及び活動予算の件について、いずれも全員一致で議案のとおり決議、承認されました。また、当法人の理事及び監事の役

員全員の改選についても全員一致で承認されました。

その後、出席者による意見交換を行いました。そこでは、本年当法人が設立10周年を迎えたことから、これまでの10年の活動を総括し今後の活動を展望していく場として、本年12月2日に「設立10周年を振り返る協議会」を開催する旨の報告がありました。この協議会では、子どもシェルター「ピピオの家」の役割や必要性、入所者の出先の

確保の問題、自立援助ホーム「はばたけ荘」も含めた入居者に対するソーシャルワークの質の向上、アフターフォローなどといった課題について意見交換をしていく予定です。

また、出席者からは、当法人の財務状況などを踏まえ今後の活動の展望について検討していくべきではないか、またアフターフォローについて考えていくべきではないかといった意見が出されました。

会員の皆様を始め多くの市民の皆様に支えられ、10年の歩みを進めることができました。この節目にあたり、改めて私たちの活動を振り返り、課題についての検討をし、またより充実した活動ができるような体制を作っていきたいと考えております。今後とも、暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

理事長 鶴野 一郎

■2020年度 「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者の概要

	ピピオの家	はばたけ荘
入居者数	6名（女子）	6名（男子）
うち2020年度中の新規入居	6名	1名
入居時の年齢	16歳 3名 17歳 2名 18歳 1名	18歳 1名
入居期間	半月以内 1名 (2021年度引き続き入居) 1か月～2か月 1名 2か月～3か月 3名 3か月～4か月 1名	半月以内 1名 (2021年度引き続き入居)
2020年度中の退居者の退居後の行き先	親のもとへ 1名 自立援助ホーム 2名 ファミリーホーム 2名	親族のもとへ 1名 アパートで一人暮らし 1名

スタッフ通信

「ピピオの家」スタッフのOです。

今回は、「ピピオの家」の子どもたちのアナログ？！な過ごし方について紹介します。

「ピピオの家」には、スタッフの仕事用のパソコン以外、インターネット環境はありません。子どもたちのインターネットに繋がる機器（スマホ、タブレット、音楽プレーヤー、ゲーム機など）は、入居時に事務局に預ける約束になっています。Wi-Fiも飛んでいません。

1日の内、何時間もスマホと共に過ごすのが当たり前になっている子どもたちにとって、スマホが手元にない生活に入ることには、多かれ少なかれ覚悟もいり、不安、不満もたくさんあることでしょう。

「スマホなくて、何して時間をつぶす？」というところからのスタートです。

◆語学学習

ある時期には、韓国語の挨拶や、単語が飛び交っていました。元々韓国語が少しわかる人が

二人重なり、韓国語学習熱がヒートアップ！

もう一人の子どもも刺激を受けて、身近にポルトガル語を話す人がいるからと、ポルトガル語の独学を始めました。こちらは、教材も少なく、なじみの薄い言葉でしたが、夜遅くまで一人で黙々と頑張っていました。

ラジオやテレビの語学講座もフル活用しました。（スタッフは、パソコンの翻訳アプリ等を駆使してお手伝いしました。）

◆料理

入居当初は、ほとんど包丁を触ったこともなかったのに、毎日の様にスタッフの食事作りを観察し、お手伝いし、退居する頃には、「何も手を出さなくてよ」と宣言し、一人でみんなの夕食を用意できるようになった人もいます。

初心者向け料理本や、スタッフもよくお世話になる料理アプリをプリントアウトしたものを手書きで写して、自分専用レシピ集を作り、これからの備えている人もいました。

ハロウィン、クリスマス、バレンタイン等の

季節の行事のお菓子作り、プリン、クッキーなどのおやつ作り、たこ焼きパーティも人気です。

お母さんの母国の伝統のお菓子を披露してくれた人もいます。丸くてかわいいお菓子は、お祝い事がある時には100個以上作っていたそうで、手際よく作り、みんなに外国の味と作り方を伝授してくれました。

◆作品

ボランティアさんご指導による、ハーバリウム作りは、毎回人気です。それぞれの好みを活かしたセンスある作品ができあがります。

100均の手芸品やクラフト教材もよく活用しています。ミシンを使ってオリジナルデザインのフリフリエプロンも完成！（手作りの作品作りには、ボランティアさんのお力添えがとてもありがたいです。）

イラストが得意な人は、ピピオ子どもセンター公認のキャラクターを生み出し、スタッフ作製の殺風景な書類をポップな暖かみのあるものにバージョンアップしてくれました。（イラスト

も、パソコンやタブレットで描く方が簡単で、よりクオリティの高いものが描けるそうです。）

◆音楽

電子ピアノで、好きな曲を両手で弾けるまで、毎日コツコツと練習した人。持っていただけで全く弾けなかったギターに取り組んで、たくさんのコードを覚え、ハイテンポな好きな曲を弾けるようになった人もいました。（スタッフは誰もギターが弾けなかったので、スタッフの息子に遠隔?!で教えてもらいました。）

一人一人に貸し出し用のCDデッキとCDもあります。夜、眠れるまでラジオを聴く楽しみを見つけた人もいます。（今どきは音楽もスマホに取り込んで聴く時代。CDデッキは家にはなくて、初めて使うという人が増えました。）

《次号に続く》

今回のスタッフ通信は約2,500字の〈大作〉です。執筆スタッフは「適当に削って」と言っていたのですが、面白いので削る箇所はありません。今号では途中までです。次号での続きを、お楽しみに (o^)/

ピピオ掲示板

寄付等のご協力ありがとうございました

山本様、神原様、磯邊様、小武家様、船木様、井上様、高井様、こね森内科医院様、山口様、寺西様、倉田様、片桐様、瀬戸様、山崎様、野口様、二宮様、井上様、高橋様、光成様、佐藤様など多くの方々から寄付金等を頂いております。日々子どもたちの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。

この場で御礼申し上げます。

生活用品のご寄付について

ピピオの家・はばたけ荘から一人暮らしを始める子どもたちへの生活用品の提供についてご協力をいただき、ありがとうございます。

この間、多くの家電製品や家具などを頂戴し、ストックも充実してきましたので、当面、ご寄付の受け入れを中止することとさせていただきます。

よろしく願いいたします。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル 505号
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659
ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>